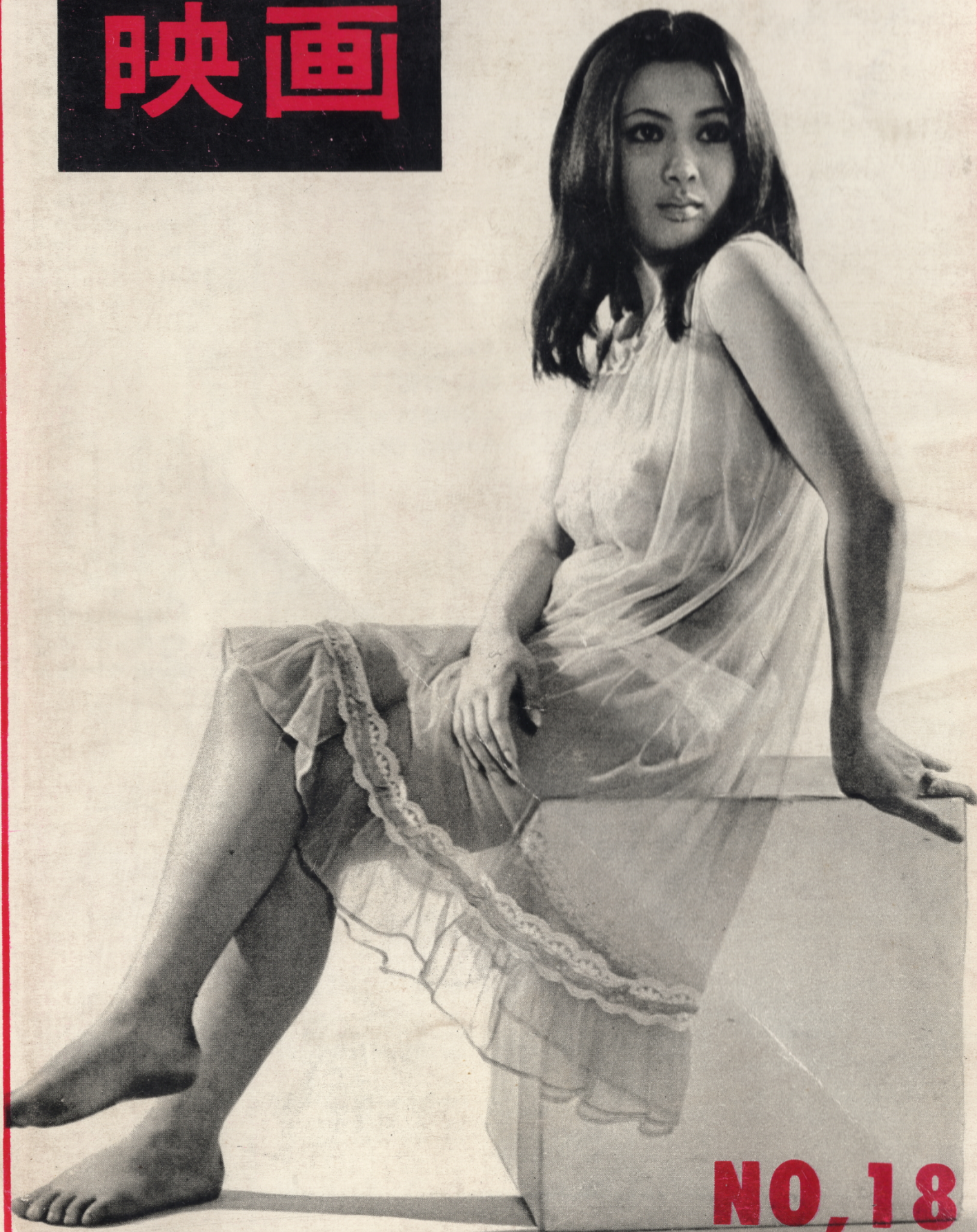
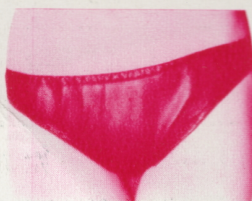
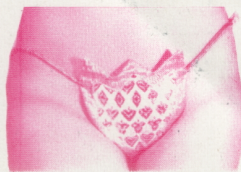
成人映画

特集——
映画にセックス・シーンがなぜ必要か!?

NO,18

セクシー下着のメーカー

見せるものから、隠すもの迄ベッドルームウェアー百般

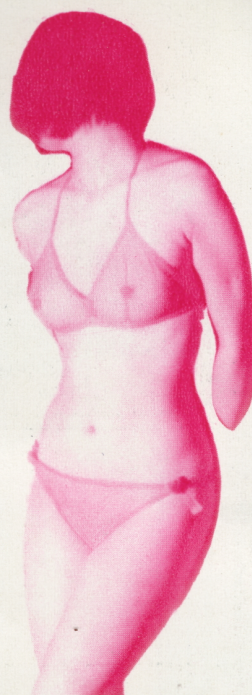
皮（ヤンピ）ビキニ
黒色・赤色・紺色
大・中・小
各二、五〇〇円

生ゴムビキニ
大・中各一、〇〇〇円

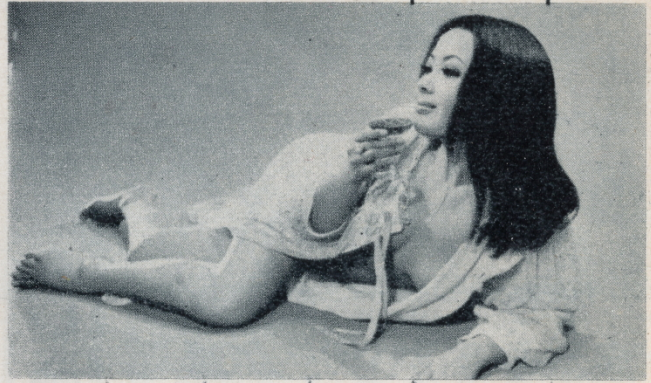
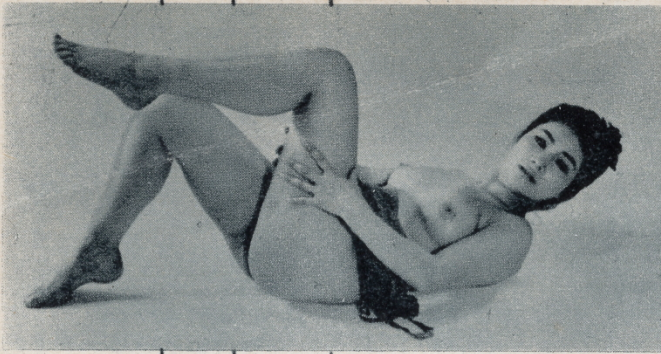
フラワーバタ
（金銀縫合せ）
フリーサイズ
九〇〇円

ビキニレインボー
（生地多色）
大・中各　八〇〇円

遂に完成!!伸縮自在貼り目なし合成ゴム
ラテックスパンテー・レオタード全身タイツ

ダブルオービキニ
上下共　¥ 1,000
フリーサイズ
赤色・黒色・
ナイロントリコット

ショッキングなパンテー・SM衣裳・皮革、ゴム製品・豪華なネグリジェ・舞台衣裳・和装下着・観賞用水着・男女用ネオパンテー・女装用下着・ドレスからカツラ迄百種

※見るだけで恍惚を呼ぶカタログ、豪華カラー写真印刷
（B５判Part４　ビニール表装）¥ 500
お申込みは現金書留か小為替で（切手代用は二割増）

マ ル ゴ FM係
MARGOT
東京都渋谷区千駄ケ谷
３丁目４番地
TEL 東京（401）2502
営業時間AM10時～PM８時
年中無休

アルバイトBG女学生
一般モデル募集電話乞

成人映画 No.18目次

表紙■瞳亜矢子

《特別企画》

特別企画

映画にセックス・シーンがなぜ必要か!?

成人映画プロダクションの作品のみならず、新藤兼人監督の「性の起原」、吉村公三郎監督の「堕落する女」があいついで登場する。ひろいあげたらきりがないが、今村昌平、大島渚、吉田喜重、中平康、若松孝二、武智鉄二ら数えあげたらキリがないほどの映画作家が、こぞって〝性〟をテーマにして人間の本質を追及している。映画の中でなぜかくもセックスが語られ、映像で提起しようとするのか。もっとも根源的な問題を、われわれはもう一度解明しながらその意味をつかんでおく必要がある。「黒い雪」が権力によって不当に裁かれ、そしてそれを支持する〝判かっちゃいない人種たち〟にこの特集をおくる。そして表現の自由の絶対の権利も守るために

（編集部）

成人映画、おいしい映画

白石かずこ〈詩人〉

われわれは、何のために映画をみるのであろう。何のためにレストラン・シアターにいき、高い夕食をたべ、ステキとされる外国のショーなどみるのであろう。また、何のために場末のストリップ小屋の看板を気にするのであろう。なぜ、何を、何のためにみたがるのであろう。

美味しいものをみたいのだ。楽しみたいのである。退屈から解放されたいのである。エロスの匂いをかぎたいのである。エロスがなくてもエロスのはしきれ、さしてうまくなくても、せめてその色香を味わいたいのである。人間が食べることも、みることもさして、かわりない。飢えていて、どうしてもこの米びつの底をあらわなければという時以外

「砂の女」の岸田今日子と岡田英次

は、衣食足りて礼を知ったアカツキは、快楽を充分、賞味したいのだ。

男と女の大人の快楽の粋は、セクスの花の匂いこぼれる風景である。そのために生まれたのであるかどうか出生のいきさつは知らないが、世にピンク映画とかいわれる、成人映画というものは、大人のいろごとの好きなものども、特に男たちに好まれ、そういう映画が、次から次と、常にどこかで上映されている。

どのピンク映画がどのようにすぐれているかということには、わたしはふれられない。

というのは、わたしは、それほどマメに数をみてないから。しかし、わたしは、芸術云々とかここで云うのはキライで、ここで、わたしののぞむのは、成人映画は、どれだけエロス美を、すばらしく表現し、わたしを楽しませてくれるか。その楽しませる感度が、価値の基準となっている。

映画にかぎらない。わたしの好む小説も、絵画も音楽も詩も、人柄も、すべてエロスとつながる。ときに、わたしは、それをエクスタシーとよび、エクスタシーの感じられない芸術は、価値を認めないなどという。などというだけでなく、真実、認めない。何も男と女の情事や、セクスのいとなみや風景から、匂いこぼれるエロティシズムを、芸術だなどといわないが、芸術というものは、現実を越えたシュルな現実をもつべきであり、その芸術と呼ばれるモヤモヤの霧には、エロスの露が濡れていなければならない、エロスの虹がさしていなければならない

そこで、エロスのかがやき具合で、これはホントの芸術であるか、うそのものであるかと、鑑定するのである。

話が、芸術の一般論にとんだが、ピンク映画についていえば、わたしはこの中でも、エロスの涙の具合を、いつもみつめるのである。裸であっても、いくら裸になっても、エロス美を感じるというものではない。

なかには、野卑さと、わいせつな醜悪さだけで、やめてくれ!という画もある。

そういう意味で、ホントにエロスの美しさや味が、ゆたかにえがかれているピンク映画をつくることは、普通の映画より、むずかしいことであろう。

土門拳のように、門とか建物とか汚れた子供たちを力強くとるという部門もあ

れば、ヌード専門の写真家たちもいる。ピンク映画というのも、映画の中では、ヌードという婦人科の部門である。

男でない、女のわたしは、はやくから女のヌードの美しさに心うたれ、学生時代はストリップ小屋とヌード写真家の許に通ったものである。写真にうつる女の体の線やかたち、色つやを愛で、それをどのように視覚化するかということにとらわれた。日本には、浮世絵などの裸の歴史があったというものの、写真や映画などに、映像化され、とらえるようになって日は浅い。そこで、裸に対する見方に、どこか、陰湿な羞恥みたいなものがからまり、それがときどき、とても汚らしい感じになる。どこか、まだ、真の意味でエロスの美、あるいは裸ということ、また、人間のセクシュアルな風景を、まっすぐ目を見開いてみる自信とか、信頼みたいなものがない。

昔とちがい、裸になる女たちの表情だけは明るく自信とよろこびにあふれ（昔は、どこか受難者的で暗く、ハスにかまえたスネタ不幸の影があった）てきたのに、なぜか、まだ、観る側の心の椅子は、陰湿な恥部を隠している心理がドブのように停滞し、うごめいている。そういうのが、どーも、わたしは好きでない。イヤである。

スエーデンの成人映画などが好きなのは、もう、裸や情交を、ビフテキと思い、エロス美をそのまま、くったくなく自然に表わし、エロスを常食とすることを人間のマナーと心得てきた彼らの精神風土が、さわやかにみえるからである。そこでは男と女が田園で緑の草をかんでいる牛や馬のように、みえてくる。誰も牛や馬のセクスシーンを、ワイセツかいなか、キレイとも汚ないともいわない。神がつくった自然だからだ。自然だけのみ、うけとる。

わたしは、ときに非難を受けたり、受けなかったりする日本の成人映画が、はやくのびやかに、くったくなく、自然な本能の魅力を回復して、育ってくれるように願う。

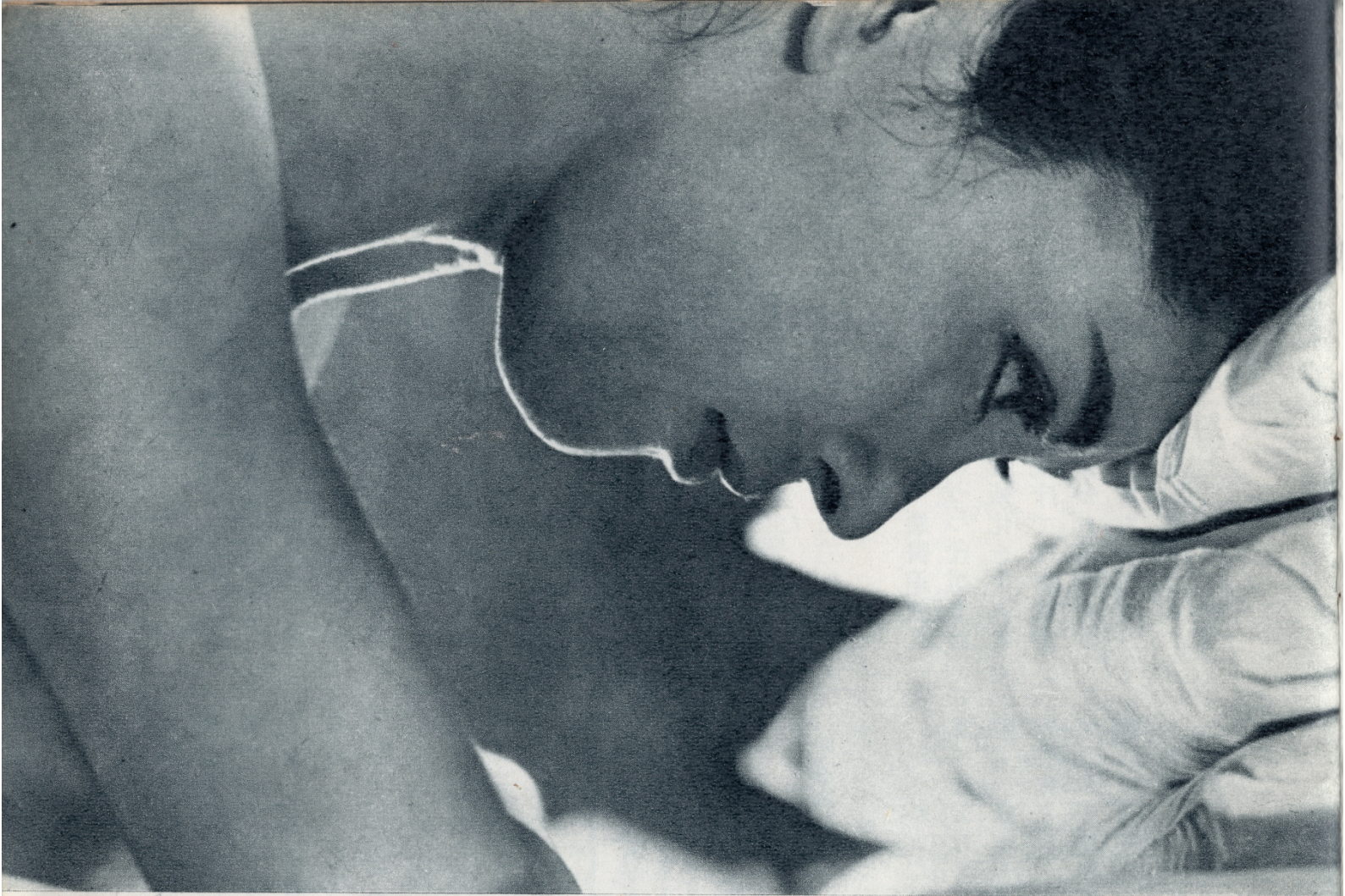
ドラマチックであるか、どうか、残酷かどうかより、まず、成人映画こそ、人間のもつ美徳のうちで、一番、魅力のあるエロスの復権のために、真のエロティシズムを開花させる映画を、成就させてもらいたいものである。

もっと出せ!

長部日出雄
〈映画評論家〉

いま、世界中の芸術家の関心は、性に集中している。なぜなら、性こそ「現代の芸術に残された唯一の未開の分野だ」からだ。

人類の歴史はじまって以来、人間は営営として性行為を続けてきながら、われわれはまだ性の本質について、ほとんど何も知っていない。そうした未知の分野に鍬を打ち込むのは、芸術家に課せられた責務だ。映画も、その例外ではない。

ではなぜ性は未開の原野のままに放置されてきたのか。それは長い間、性にふれることが世間のタブーだったからである。が、タブーを破ることも芸術家の責務であろう。

松竹映画「情炎」で全裸演技を見せた岡田茉莉子

なぜ、セックスを描くのか、というより、芸術家が良心的であればあるほど、現代ではセックスを描かなければならないのである。人間の秘密はセックスの中にかくされている。芸術家はこのセックスにかぶせられた、「良識」のベールをひきはがして、人間のかくされた真実をはっきりと直視しなければならぬ。

このベールをひきはがす作業は徹底的にやらなければならない。それが中途半端だと、ワイセツになるからである。ワイセツというのは、性のかわかむりの状態である。それは、性の追求を中途で怠った場合に生ずるあいまいな感情である。芸術家はこういうあいまいさを許してはならない。

性を描いた映画が、他の性を描いた芸術にくらべて、世の「良識」の指揮を受けることが多いのは、映画の表現が、ほかの芸術の表現にくらべて、より直截で即物的で具体的だからである。が、性にかぶせられたベールをひきはがす作業が徹底的に行なわれなければならないとすれば、物の裸形を直截に即物的にそして具体的に露わにする映画こそ、もっともそれに適した方法なのだ。

つまり「性はかくさなければならない」という迷信を打破するために、一番有効な武器が映画なのだ。世の「良識」や、映倫や、警察の取締り当局は、そのことを知っていればこそ、映画に一番強い攻撃をかけてくるのである。

そして彼等は「露わにするな。もっとかくせ」という。性はかくされればかくされるほどワイセツになる。PTAママや映倫や警察の係官こそ、一部の映画をワイセツにしている元兇なのだ。ということは、取りも直さず彼等こそいまの世の中でもっともワイセツな人間たちなの

であろう。
性を恐れず直視した若松孝二の「胎児が密猟する時」や、武智鉄二の「黒い雪」の一体どこがワイセツか。武智裁判での弁護側は、検察側に対して「この映画のどこがワイセツか。もしワイセツだと感じたとすれば、それはあなたがワイセツだからである」ということを、徹底的に主張すべきだと思う。
取締り当局が「胎児が密猟する時」や「黒い雪」の公開を恐れるのは、それが真実を衝いているからなのだ。ＰＴＡママや、オチョボ口の文化人の「もっとかくせ」という声に対して、成人映画の観客は、ストリップ・ファンにならってこう呼ぶべきだろう。
「もっと出せ。もっとマジメにやれ！」

ケッタイなおばはんをなくすために

斉藤正治
〈映画評論家〉

「黒い雪」裁判を傍聴にいき、ケッタイなおばさんにお目にかかった。ケッタイなとはこの際は変な、異常な、あるいは変態というような意味である。
彼女は俗悪映画追放とか、悪書追放とか、二、三年に一度ぐらいづつ仕組まれる運動に、まっさきに取締強化を申入れる団体の頭目である。警視庁では総監室もフリーパスだと雑誌に書かれる程だから、その筋では大変な実力者なのだろう。「黒い雪」摘発前後の彼女に指揮された上映禁止運動は派手だった。
かくもコワモテの指導者を、私はケッタイなおばさんと呼ぶ。理由は？。証人席での証言を聞こう。彼女は「黒い雪」が芸術なら、日本は暗黒だとおっしゃってから、珍無類な芸術問答を弁護人との間に繰展げた。
弁護人「芸術とはどんなものか」
吉川「芸術とは美しいもの」
弁護人「美しいとは？」
吉川「見れば見るほど深みがあるもの」
弁護人「深みとは？」
吉川「楽しくなる、ほほえましくなるもの——」
ざっとかようなほほえましき限りの芸術観を確固とお持ちの彼女、よせばいいのに、展覧会の裸婦の絵も、接吻シーンのある映画も、青少年には見せない方がよろしいとつい本音をはいてしまった。
性とワイセツとは別であるというのが今日では常識だ。南博さんによれば「性行為は他人に被害を与えない限り正常。性そのものをワイセツとするのはそれこそ異常である。」
検察官は武智さんらの取調べのさい、「性行為は夫婦間であってもワイセツだ」と常に強調していたそうである。南学説では、この検察官は性的異常性格者だということになる。
展覧会のヌード絵も見せてはならないというような性認識のおばさんももちろん異常性格者だ。ケッタイな感覚の持ち主なのである。「黒い雪」はこういう人たちによってワイセツ映画だとされたり、起訴されたりしているわけだ。

さて、戦後において映画が果した役割は、性の解放という点で目ざましかった。性描写の積重ねを通して、大衆は性を根源とするもろもろのものから解放されたり、解放されようとした。

性的に抑圧されている人が映画を見た。映画は抑圧からときはなされるためのペニシリンであり、ストレプトマイシンだった。

さしづめ私の見るところ、このおばさんは相当に抑圧されている。性的コンプレックスに陥っている。だから展覧会の絵にも、接吻シーンの映画にも、ある恐迫観念を持つのである。

清潔とか保護育成とかを旗印しに、コトがあれば権力者のお先棒をかつぎ、″世論″とやらの露払役をつとめる彼女の、大義名分の仮面の下にうっせきする異常性を、少しでも正常にするために、彼女は交通安全映画の試写会に足を運ぶのではなく、劇場に出向いていく必要がある

映画はこういう人たちを救済するために、セックスシーンを描き続けることが任務になってくるのである。

末尾で恐縮だが、ケッタイなおばさんとは東京母の会連合会理事長吉川政枝女史である。念のため。

芸術かワイセツかで波紋を投げた「黒い雪」

なぜセックスが描かれるか!

佐藤重臣
映画評論家
「映画評論」編集長

この間、立教大学のシンポジウムで「エロチシズム」という題で講演をしました。若い学生たちはどんなワイ談を私がするか、カタヅを呑んでいたのですが、私のハナシしたことは「エロチシズムの最高は戦争である」とか「平凡パンチはノン・セックスでヤマト・オノコの勃起力を退化させている国賊雑誌である」とか、語って一向に性感指数のたかまらないうちに、時間切れとなったようでした。

映画になぜセックスが描かれるか——という問いに、もし答えるなら、そこにセックスがあるからだ、という他ないでしょう。しかし、セックスというのは単に、オトコとオンナがお手合せするだけが、それではない。いや、セックスというのはいくらでも変化した形で我らの周囲をうろついている筈なのだ。

ジグムント・フロイトは、海が母親の象徴だったり、夢に現われる象徴物から御

当人のリビドオ（本能）を見ぬいたりなさっている。それほどに我々は潜在的な性欲によって毎日を生きているのだ。

とくに映画は暗闇の芸術だ。暗闇とベッドのなかの暗闇とは軌を一にしているところから、映画はセックスを描くのに、いちばん有力なメデアであるということが、わかって来た。

若松孝二の「胎児が密猟する時」では、主人公がたった一人出てくる。主人公の丸木戸定男は女房に裏切られた完全なマザー・コンプレックスの男だ。だから、母親の胎内のあのヌクヌクした子宮の中に帰りたいという「胎内回帰」の妄想にとりつかれている。この世は、汚ないオンナどもによって、自分は汚辱の一生を送らねばならないのが、なによりつらい男なのだ。しかし、この世にいったん生れた以上母親の胎内にもどることは出来ない。

そこで彼はマルキ・ド・サド伝来の鞭をふって、ゆわえつけたオンナに〝お前は犬だ！　犬になれ！〟と荒れ狂うのだ

現代において若し、セックスの意味があるとしたら、犯す、犯されるというこの関係が唯一のこの世における生き甲斐を意味するからでありましょう。私が始めに戦争こそ、エロチシズムの最高であると申したのも、つまり、天下あげて、〈犯し合う〉からです。相手をひざまつかせ、自分の命令のままに犯かす、これがセックスの醍醐味であります。

あの高慢チキでカマトトぶっている若尾文子を、いちどは化けの皮をひんむいてやりたい、そんな願望を誰しも男はいだくものです。同じ「犯され女優」のイメージでも佐久間良子は犯されるのを待っているような感じだ。

据え膳食わねば男の恥。オンナを犯さないのは男の恥といった感じで、シンナリ待っているのが佐久間のイメージです。

映画におけるセックスはそんな色んな他面性をもっています。映画作家がそれを通じて、現代を描こうとすることはこれ当然至極のことといえましょう。

人間への接近

新藤兼人
〈映画監督・近代映協〉

男と女の愛の結びつきと、父あるいは母、つまり親としての、子との愛の結ばれ方は、どちらもなべて、ごくおおざっぱに「愛情」というコトバの位置関係におかれているのであるが、実はまったく異質な「愛」の関係にある。

男と女が、夫婦とよばれる関係に結ばれたとき、セックスは愛の確認としておこり、完全なセックスが行われたとき個個は安定し、互いの愛ははじまったと認めあう。セックスが不完全なときは当然個々は安定しないし、状況は破壊される。

かくして男女は、セックスに完全に没入したいと願い、それによって愛の安定を確保しつつ、やがて自然のなりゆきとして衰え、セックスは亡びる。けれどももはや失われたセックスのなかでも彼らは安定する。過去の必死なセックスへの回想が現状への手がかりとなる。人間の歴史のなかで、夫婦の愛は一回性であるゆえに、悲劇的で殉死的である。セックス

は燃えさかり、残酷に亡びる。そして一片の痕跡もとどめない。
　夫婦は子どもをつくる。セックスは結果的にそれを望んでいる。子の生命は親に代わる生命である。子のセックスが親に代わり、人間の歴史がつくられる。親と子の関係は永続性を指向し、人間再生の願望をもつ。しかし根元において子は親の生命を強奪してのびるのである。
　親と子を、タテに結ばれた関係とすれば、妻と夫はヨコに結ばれた関係にある。愛の系譜がちがう。家庭はこうした構造のワクでまとまっており、子のセックスが目ざめるときに、奪うものと奪われるものとのむごい交代のカットウが進行する。けれども、メロドラマの物語性では、愛のパターンがまず先行して、人間の愛とよばれるものはひどくあいまいなのだ。人間はもともと愛をもって生まれたものなどと、乱暴な判定を下したりする。

「性の起原」の乙羽信子と殿山泰司

　人間というものを、徹底的に追究することは、愛のあり方をさぐることである。愛は、人間の条件のセックスをみつめなければ正体はわからない。人間は、生きものとしての本能と、人格の形成をめざす理性との、たがいに痛めあう矛盾のなかに生きている。ここをひき裂かなければすべてははじまらない気がしている。
　ドラマの、色気というものに、わたしはひどく抵抗をおぼえる。日本のお芝居というものは、色気の発散に苦心さんたんしてきたのであるが、いかにそれは洗練されようとも、観るものの劣情にうったえかけようとする卑しいコンタン以外のものではない。過去にながい閉ざされた世界をもつわたしたちは、セックスというものをたえずさけて通り、正面からみつめようとしなかった。そのためわたしたちのドラマは常に迂回し、人間の中心に迫ることができなかったようである。

シネマY談♣シネマY談♣シネマY談♣シネマY談♣シネマY談♣シネマY談♣

上野で〃ピンクスター祭り〃が大当たり!

上野パークでは去る五月一日から五日まで、成人映画のスターを動員して〃スター祭り〃を行なった。ヒルと夕方の二回にわたって、新高恵子、香取環、清水世津、城山路子、谷口朱里、桝田邦子、左京未知子、内田高子、山吹ゆかり、林美樹、滝リエ、森三千代、山本昌平、長岡丈二が舞台に立ってあいさつ、司会を里見孝二がつとめて、連日大変な評判。最後にサインボールとプロマイドをばらまいたが、ゴールデンウィークのさなかだけにお客の入りも近来にないヒットを飛ばした。

第一回「映画評論賞」は成人向映画が独占

「映画評論」誌の第一回「映画評論賞」に本誌がさきに特集した「胎児が密猟する時」の脚本賞に足立正生、製作賞に若松孝二が受賞した。ほかに若松孝二の製作賞は「裏切りの季節」で成人映画プロの作品が評価されたが、楯と賞状を贈られたのは▼男優主演賞佐藤慶（白昼の通り魔）▼主演女優賞坂本スミ子（人類学入門）▼助演男優賞に露口茂（娼婦しの）▼監督賞が大島渚（白昼の通り魔）▼撮影賞鈴木道夫（とべない沈黙、処刑の島、女のみずうみ）▼音楽賞林光（白昼の通り魔）美術賞木村威夫（けんか・えれじい）▼新人賞荒木一郎（893愚連隊）▼新人女優賞川口小枝（白昼の通り魔）▼新人監督賞森弘太（河—その裏切りは重く）で、主催者側は〃ヘソ曲り賞〃だといったが、少しも曲ってはいないし、受賞対象がほとんど「成人向映画」に独占されたことはよろこばしい限り。

■国映は7月お盆作品としてパートカラー「異常売春白書より・地獄」（監督・新藤孝衛・江島ゆかり主演）をクランクイン・出演者はオール新人。

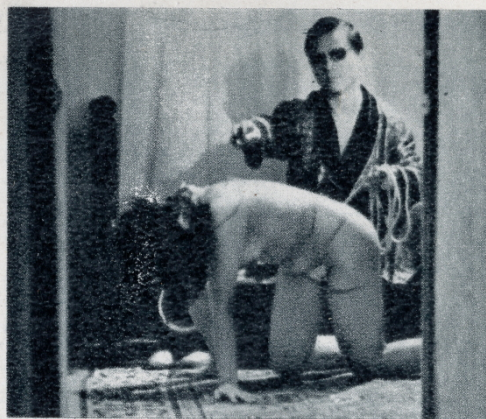
■東京興映は5月下旬から6月にかけてつぎの3本を製作する。「売春残酷」（監督・渡辺護）「蛇淫」（監督・福田晴一）「新美人局」（監督・小森白）

■葵映画は6月24日封切「恐怖の目撃者」（仮題・監督西原儀一・主演香取環）を5月28日クランクインし、6月7日アップの予定

■関東映配は6月17日からOPチエーンで封切る「鞭と肌」（監督岸信太郎）を6月13日から新宿座で先行封切することになった。

■5月1日から8日までのゴールデンウイークは「美女拷問」（東京興映）「あばずれの悦楽」（六郎）「現代女性医学」（大蔵）「無軌道女性」（大蔵）「新・情事の履歴書」（国映）が好調な成績をあげた。

■大蔵のお盆映画「生首情痴事件」（監督・小川欽也・主演火鳥こずえ）は先ごろアップした。美人の火鳥こずえをお化けにするのに苦労したとか。

陽の目を見る「胎児が密猟する時」

「胎児が密猟する時」より

日本アンダーグラウンド、センターでは劇団自由劇場と提けいしてアンダーグラウンド・シネマを定期的に上映することになった。

その第一回目は六月五日から十六日まで麻布霞町の自由劇場で毎日午后五時半と八時からの2回（土、日曜三時マチネー）上映する。入場料は三百五十円。上映作品は若松孝二監督の「胎児が密猟する時」他二本。この日本アンダーグラウンドセンターは映画評論編集長佐藤重臣氏が音頭をとってこの運動を推進しようというもので、新しいプライベート・フイルム（個人映画）の製作と上映を活発化するものとして注目される。

■日本映画監督協会ではこのほど映画「黒い雪」の不当な裁判求刑に対して抗議の声明書を出した。「映画〝黒い雪〟が法廷で裁かれています。〝黒い雪〟については、私たちの内部にさまざまな価値判断があります。しかし私たちは如何なる作品であれ、それが法廷で裁かれることに反対なのです。表現の自由は人間にとって絶対の権利であり、憲法にも認められたものであります。私たちはこれが権力によって犯されて行く事態を傍観することはできません。ここに抗議の意を表明します」というもので、第18回の通常総会で大島渚監督の緊急提案できまった。

新高恵子が寺山修司のグループに参加

新高恵子が寺山修司の主宰する演劇実験室「天井桟敷」に参加、六月二十七日から七月一日まで新宿末広亭での「大山デブコの犯罪」に主演する。

舞台は初めてで、「まったく未知の世界だしとてもコワイの。でも寺山センセイを信頼しているから、自分の力をためしたい」と大ハリキリ。

新高が寺山と知り合ったのは某グラフ誌の企画で対談したのがきっかけ。この時彼女はピンク映画のトップスターだったが、寺山がピンク映画に偏見をもたない人間的な抱擁力、それに多彩な才能にビリビリとシビれ、感電ショックとなった。

寺山としても新高の素材にひかれ一時はアート、シアター公演の自作の「アダムとイブ」に彼女を推せんしたが、事情でこのときは春川ますみになった。

そして寺山が「天井桟敷」をはじめたときさっそく飛びこんだ。「大山デブコの犯罪」は新高のための企画で、若くて美しい人妻役で、ある日突然夫の下半身が魚に変わってしまったことから彼女はセックスの面でモンモンとした毎日、日夜肉体の幻想に悩まされる―といったストーリー。

当然セクシーな場面があるわけだが「寺山先生が要求すればなんでもやります」とすっかり割り切っている。

浜美枝の全裸写真が
米国「プレイボーイ」誌に載った

浜美枝の完全ヌードがアメリカの「プレイボーイ」6月号に掲載されている。

「007は二度死ぬ」の撮影中、ロンドンで、若林映子らとともに宣伝用に「プレイボーイ」のカメラマン、マイナード・ウルフ氏が特写したもの。はじめ浜は完全ヌードはイヤだ！と拒否したが宣伝に協力するという出演契約の条項をたてにとられてOKしたわけだが、使用写真は浜がチェックするという条件で全裸になった。ところが使用されたフィルムは浜が検閲した以外のものだった。

「全裸になったことが私の軽率だったけど、泣き寝入りはしたくないわ、道義上の問題として抗議したい」と東宝の雨宮撮影所長に一任した。

ところでこの問題は果たして浜が怒り抗議するほどのものなのか。もともと「プレイボーイ」はヌードを売りものにする雑誌でありこれまでも世界的な人気女優のヌードがぞくぞく掲載されている。ジェーン・フォンダ、マリリン・モンロー、キム・ノバク、カトリーヌ・ドヌーブ、アーシュラ・アンドレス、ステラ・スティブンスなど数えきれないほど、思い切りのいい全裸ポーズをのせている。なかでもきょ年の8月号にジェーン・フォンダが、無断でヌードに近い写真をのせた！というので「プレイボーイ」を相手どって六十八億四千万円の損害賠償請求の訴えを起こしたことがある。このときは「獲物の分け前」の映画の宣伝と「プレイボーイ」が飛ぶように売れるPRだ！といわれたものだが、こんどの浜の場合は〝宣伝に協力する〟という条項に従って、自から全裸になったわけで、〝宣伝〟ということは事前に納得していたわけだ。それが「プレイボーイ」の策術にかかるからといって怒るのはやはり役者が一枚下といえなくもない。

すべてあとの祭りである。

だいたい浜美枝が全裸の写真が道義的にどうだこうだ！というより、自分自身のヌードをあたかも罪悪視している態度は気に食わない。おまえさんに「007は二度死ぬ」の製作プロが一千万円ものギャラを支払ったのはなんのことはない、ジャパニーズセクシーのミエ・ハマの魅力なのだ。そして映画ファンはそれを要求し、それに高い入場料を支払ってみるのだ。ピンク女優の爪のアカでものんで勉強しなさい、浜美枝クン。

魅力探険

＊谷ナオミ

NAOMI TANI

博多ナマリがちょいちょいカオをのぞかせ、それがかえって彼女の可愛らしさになっている。いささか脂肪質だが、天真らんまん、割り切りもいい。きょ年の十二月上京したのが東京見物なそうで、フトコロに50万円。二本指の女こと豊原路子の逞しさに胸打たれて女優になれるものならとユメみた。夢が現実となるときびしく切実で残酷なものだ。邦画五社の某助監督に50万円をだまし取られてポイ。

人がいい。十八才の若さと世間を知らなすぎたわけだ。「それでもいい勉強になりました」とケロリと気にしていないところは現代っ子の割り切りのよさだろう。脱ぐ方も同様だ。

「スペシャル」「現代女性医学」「女悪徳医」「札つき処女」とまたたく間に進撃しはじめた。新旧交代期の先陣のメンバーだ。本名福田明美。

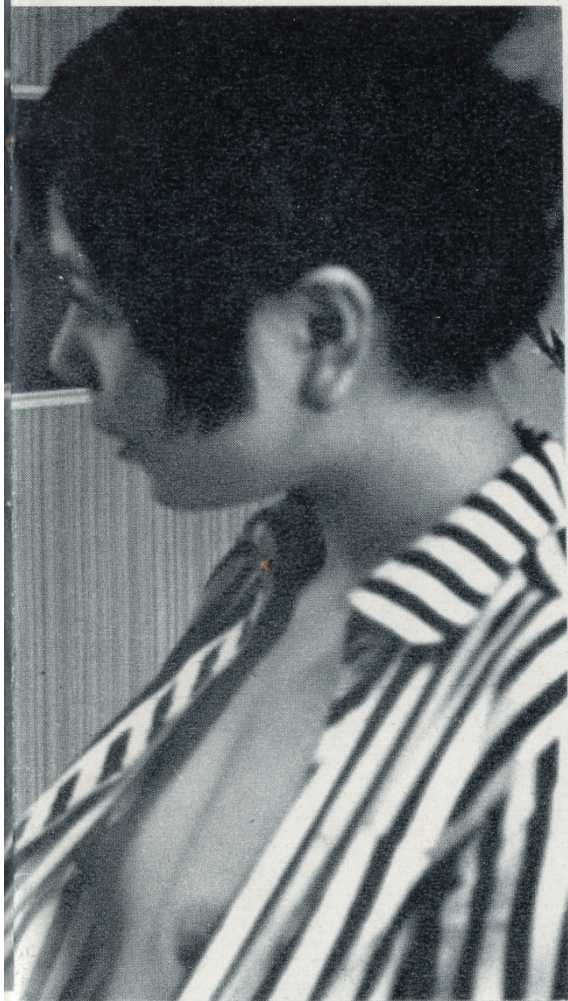
スター訪問
一星ケミ

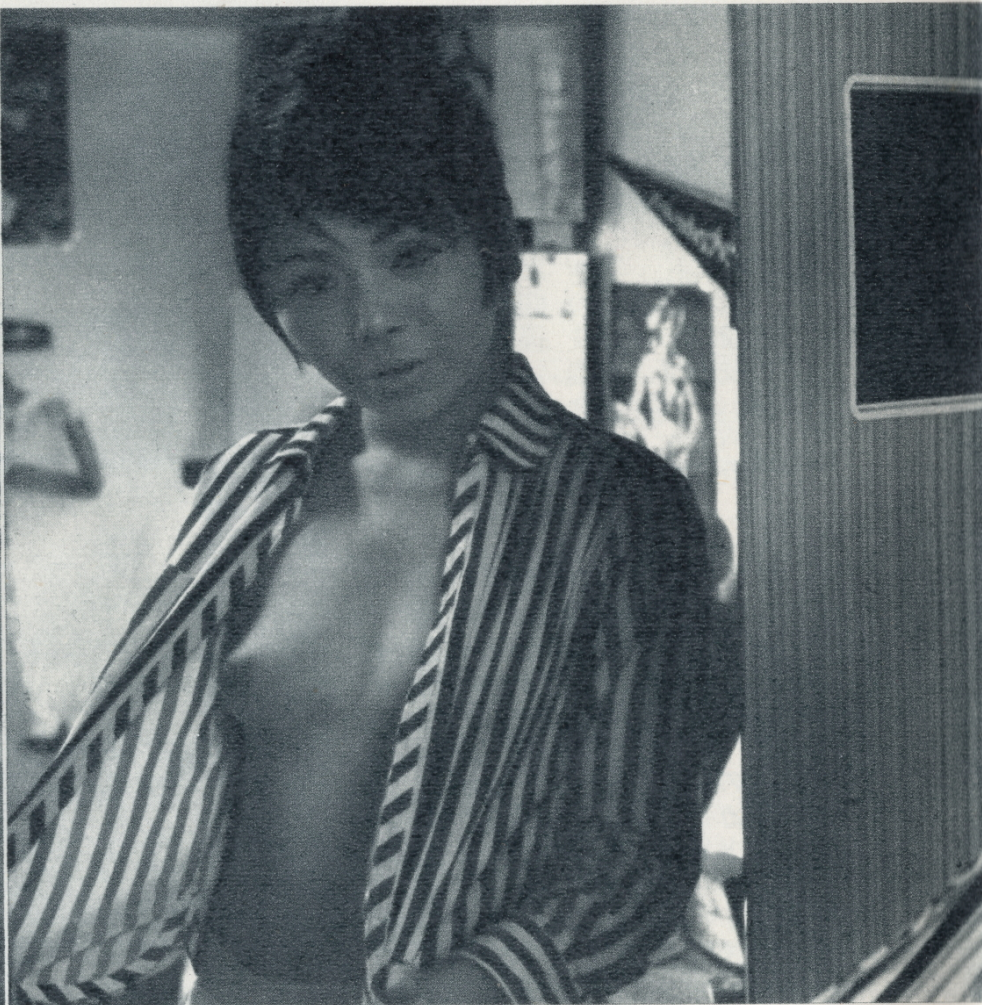
陽気でお酒落な19歳

中央線の大久保駅前の喫茶店で待ち合わせる。濃いメーキャップ、オレンジ色のブラウスにグリーンのスラックスというハデなスタイルだから周りのお客の視線が集中する。「あたしねえ、主役なんかやりたくないのよ、準主役で主役を食っちまう役をやってゆきたいな」「ちょっとねえ、あるカメラマンからこの前モデルになったときの写真もらったの、そっとみて、そっと…」と大きなカゴから出してみせたのが、手札版のスチール三十枚ほど。そっとみてねーというのはなるほど、あたりをはばかってみなけれぁならないようなオールヌードのホーズ集の連続。

とにかく思ったほど元気がよくて思い切ったことをズバズバ発言する おもろい女↓

ちょっと出ててー」というから、共同トイレに行く。

「やあ、いい感じじゃない」「そうでしょ、カッコいいでしょ」と得意満面。「あたし衣裳持ちなのよ」といいながら洋服タンスをあけて、つぎつぎとはいたりきたり。男物が好きなそうで、太い縞のシヤッに白いスラックスがよく似合う。「食事なんかどうやってんの？」とヤボなことをきいたら「自分でチャンとやるわよ、センタクもするし…それきくとみんなオドロクけどね」なにもおどろくことないやね。女の子はみんなそれくらいのことやらないと〝女〟じゃないね。「うち（実家は佐賀の質屋さん）で帰って来いって手紙くるけどね。お嫁の話だけど、帰る気もヨメになる気もないな」ケロリといい明る

↓の子である。三十分ばかり映画と仕事の話をしてから外に出て、とにかく彼女のアパートに行く。新宿区百人町、公団住宅のアパート群の中を通り抜けて行くと小ぎれいなアパートがある。その2階が彼女の部屋だ。四畳半で、赤い小さなジュウタン、鏡台、ベビータンス、テレビ、洋服タンス、姿見、テーブルとあるから狭まい。おまけに身長164、体重53キロ、バスト85、ウエスト59、ヒップ86のグラマーだからこの可愛いい女の城も一段と狭まくなろうというものだ。

「あたしはオシャレなの。いろんなもの着て楽しみたいしそれが女の特権でしょ」というわけで、きょう買ったばかりというハデなビキニスタイルの水着を着用におよぶ。このとき記者は遠慮してというより「あたい恥かしいんだ。

く笑う。オープンでいい。いろんなサングラスを出してみせて、「あたしおそ松君みたいでしょ…」ほがらかだねえ。サングラス一つ持って行きなといい、それが帰りのオミヤゲになりやした。

★メモ　本名松下昭子、昭和22年8月21日生れの終戦っ子、十九才。佐賀県出身。「新妻のあやまち」できょ年の2月デビュー。なお出演作に「色の手配師」「夜の悦び」「不毛の愛欲」「完全なるけっこん」などがある。CBC劇団、創作座などで関西の舞台に出演、東海テレビに所属し、テレビの「特捜隊」にも2本出演。化粧品のマネキンガール、松島日大写真科の専属モデル、稲村隆正の婦人科カメラマンのモデルとして重宝がられている。

洋画界も全裸で勝負

野村　盛秋

「太陽の爪あと」のジュディス・アーシー

最近、映画がヒットしていると聞くと必ず洋画。邦画がヒットなんて話はトント聞かない。なぜか。それは、スクリーンに出て来る女の体の違い。ボリュームの違いに原因がある。そして、その女の体の見せかげんに左右されているのでございまする。

要するに女らしい体（カンジンなところが大きくなくてはいけない）の持主がバッチリ見せてくれればいいのだ。そういう映画は間違いなくヒットする。日本の映画会社もマジメにやれ。

「太陽の爪あと」のジュディス・アーシーは身長一六五㌢、体重五二㌔。九六㌢のバストの重さは〝ベニスの商人〟シャイロック（あの、女の肉で賭をしたオジサンよ）でないと分からないが、とにかく巨大なオッパイの所持者。これを惜しげもなく見せてくれる。まだ二十二才のやわ肌でっせ。

「信じられぬ世界」の一場面

「ホテル」のカトリーヌ・スパークも芳紀二十三才。一糸まとわぬ体はベッドのシーツがうらやましい。

一糸まとわぬといえば、ミケランジェロ・アントニオーニ監督の「欲望」。主人公のデビッド・ヘミングスてえ野郎をなかにはさんで二人の少女が素っ裸でふざけあうシーンがある。〝女性自身〟をアップで撮ったところもあるそうだが、税関のケチな野郎が見るのはオレだけ、他人に見せたらソン……てえ狭いりょうけんで切っちまいあがった。ふざけた野郎よ。ねえ、編集長。

変わった素っ裸に「歓びのテクニック」がある。いわゆるダッチワイフの登場だ。ウーゴ・トニャッツィは自分の思い通りにならない生きた女

上「ホテル」のカトリーヌ・スパーク
下「欲望」のデビッド・ヘミングス

にアイソをつかし、もっぱらダッチワイフにアイラブユー。ダッチワイフが大進歩を遂げたら、女なんかには用のない時代が来るかもしれないねえ。カアちゃん、ざまあみろ。

　ところであんた、ジーン・ストレッカー先生をご存知？ヌード写真の分野にひとつの歴史を作ったといわれるこの道の天才ですがな。どんな〝素材〟をどう動かして、どんな写真を作るか――それは「信じられぬ世界」を見れば分かる。信じられぬほどバッチリ女の体を拝めるのであります。

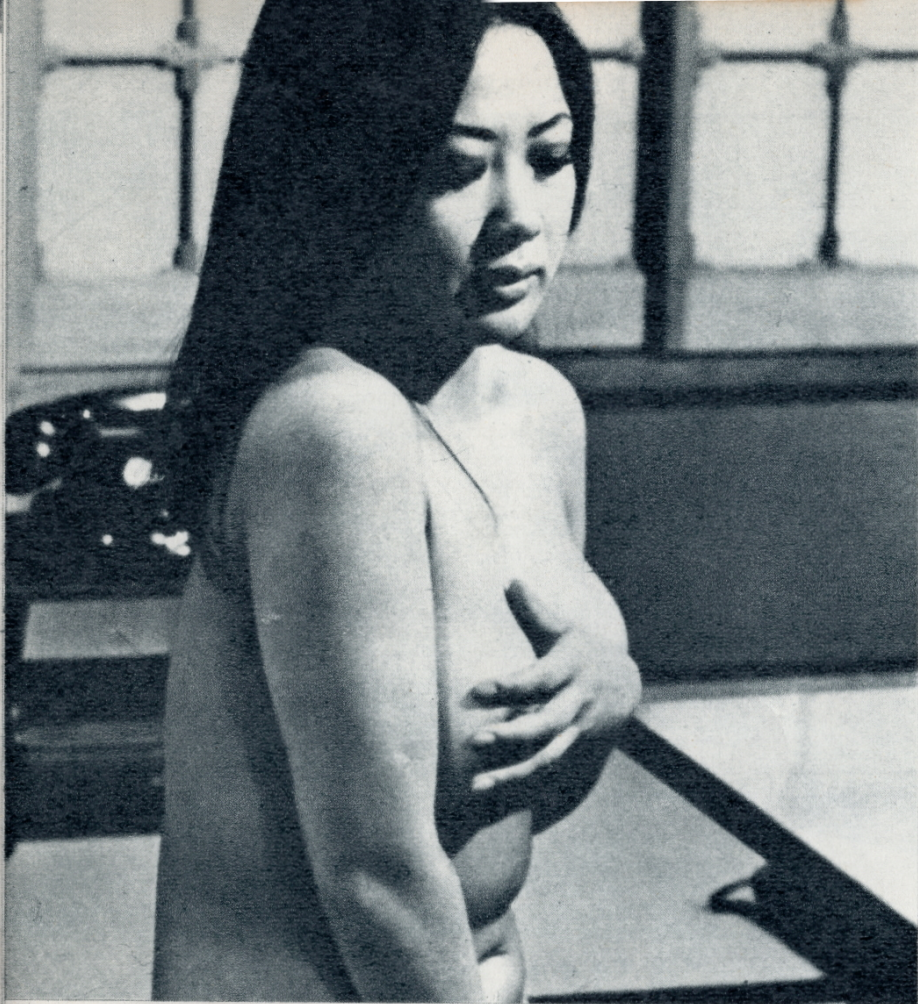
　こういった調子で洋画にはハダカがいっぱい。それも一人や二人ではない。何でも外国へ右へならえのニッポン国なのに、ハダカだけ、どうして見ならわないんでしょうねえ。

ピンク映画見たまま

新鮮な魅力・瞳亜矢子

＝新・情事の履歴書＝

演出に工夫が見られる

＝あばずれの悦楽＝

「新・情事の履歴書」でフレッシュな演技を見せる瞳亜矢子

「新・情事の履歴書」
（青年群像作品・国映配給）

ピンク映画がパートカラー（部分色彩）でお茶をにごしてきたが、これはこの世界ではじめてのオールカラー。だから記念すべき作品ともいえる。「情事の履歴書」はいまやドル箱的存在となったが三作目ともなると一番苦心のいるところ。このオールカラーに踏み切った態度はほめられていい。小諸次郎の脚本はこれといった目新しさもなく、平板なストーリーで、一、二作とさして変らないパターンだ。工夫の足らなさが難点だ。そんな脚本の力のなさに監督の山下治がよくまとめているといえる。そこには新人瞳亜矢子のフレッシュさと度胸のよい脱ぎっぷりがこの作品を支えたといえる。これからのこの種作品は女優起用の重要性を考えさせる、、ケースといえる。それにカラーの美しさ、カメラワーク（撮影　山本周）が優れている。

お話の方は漁村の海女（瞳）が村の青年に暴行され、弟がその仇討ちをして少年院入り、父が自殺、村八分されて東京でモデルになり、セックスを武器に金を得て、弟の再出発を図るといった筋立て。

まずハダカとベッドシーンファンには十分タンノウさせるだけの見せ場であって、いささか食傷させられるほど。

それにしても浜辺を脱がされてハダカで走る瞳のショッキングシーンや、ベッドシーンでオッパイをもまれるところがカラーでコッテリとみせられるんだから、山下演出の粘っこさも一流である。ネバリの山下の本領発揮というところか。米兵に車で犯されるシーンは逆にもう結構ですというほど。最近これほどハダカとベッドシーンを盛り込ま

れた映画も珍らしい。

「あばずれの悦楽」（六邦映画）

これもオールカラー。色彩の方はムラがあって「情事の履歴書」に劣るが、ストーリーがおもしろい。小林悟監督はひどい作品も撮るが、実力があるんだから、チャンと力を入れてやると、このくらい楽しい映画も作るんだから、ガンバリなさい。松井康子、橘桂子、藤ひろ子の三人の女が銀行ギャングのあと、修道女に化け金をもってタクシーで逃走する。その逃走途中、運ちゃんとのやりとり、三人三様のエピソードが回想形式で描かれる。最后は自滅するのだが、グングンひっぱって行くドラマの展開は捨て難い。なかでも橘桂子が運ちゃんに命令して、僧衣の下から手を入れさせ、乳房をもむシーンはいいアイデアでニクイ。

「若い刺激」（武田プロ・大蔵映画配給）

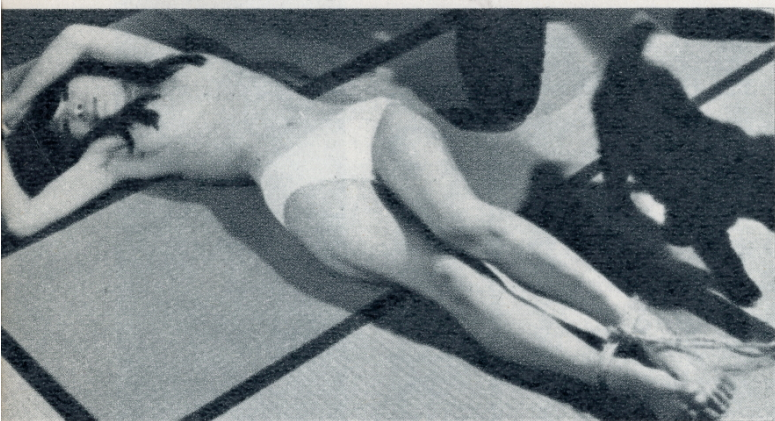
泉ゆり、小柳リカ、達見典子の三人の不良少女と三人の男、このグループが勝手気ままに大人と環境に反抗して睡眠薬遊びとか、危険なゲームをやったりする。とにかく泉ゆりとか小柳リカというみていて嫌悪感をおぼえる女優？を使ってはいけない。泉ゆりなどというなんの魅力も演技力もないのを使った点がこの作品を一段と粗雑なものにした。

大人や自分の環境に対する抵抗が描けていないものだから、この映画は一体、なにをテーマにしているのか不明で力も弱い。ベッドシーンももっと工夫して美しくとらえるべきだし、題名の割には触発させるものがない。カメラアングル、ライテングの悪さも目立っている。武田有生監督は発奮しないといかんねえ。

「完全なるけっこん」（向井プロ・製作）

山本晋也は才能のある監督だと思う。女医（左京未知子）のセックスカウンセラーを中心に数組のセックスに悩める人たちのエピソードを描いている。新婚初夜にダンナがインポで出来なかったのや、年若い新婦がなかなか燃えず、他人におそわれそうになって、火がついた話、大学教授夫人の性の悩み、新婚未完成交響楽だったインポ青年が左京を犯して、無事回復する話とか盛り沢山。

盛り上がるところでパッと色彩に変わるが、この手はピンク映画の新しい楽しさだろう。演出がしっかりしているので、まとまりがあり、脚本も工夫されている。山本監督のこれからに期待したい。

村

「若い刺戟」の泉ゆり

「あばずれの悦楽」の美矢かほる

スクリーン・エロチシズム

＊今月の新作紹介

「札つき処女」の谷ナオミ

札つき処女＝六邦映画配給

欲しかったら誰にでもあげるワ……

暗い過去をもつ二人の女性、亜希子（美矢かほる）と照美（谷ナオミ）は、必死になって更生の道を歩んでいた。照美は女子工員、亜希子は住み込み店員として。照美が、妙子（橘桂子）のボーイフレンドと歩いて、内股の奥を焼かれた。亜希子は妙子たちへ抗議にいって丸裸のまま林へ。

通りすがりの石川（司健）は介抱しているうちに燃えていった。照美のもとのヒモ岩本（泉田洋志）も復讐にいくが逆に妙子のとりことなる。石川との恋にかけていた亜希子は過去がバレて破れる。しかし二人は、歯を食いしばって耐えていく。製作＝中央プロダクション　監督＝酒匂真直

美女拷問＝東京興映配給

復讐の拷問にさいなむ白い肌!!

太平洋戦争末期の中国大陸で、宝石商平田久作（岡竜弘）妻秋子（加山恵子）娘夏代（美矢かほる）親子は、スパイの容疑で憲兵隊に拷問、射殺された。夏代は、奇跡的に生き残り、二十余年の辛酸をへて復讐のため日本へ戻る。

憲兵柳原（冬木京三）は木村と名を変え、絹江（幸美恵）

「生首情痴事件」の高月絢子

「美女拷問」の観世亜紀

という娘がいた。夏代は、絹江が死んだといつわり柳原をおびきだす。かってうけた拷問を、いま柳原親子に対して再現されようとしている。柳原は、全財産を渡したが、夏代は容赦なく三人を責める。罪をわびる柳原に夏代は冷然拳銃を向けた。監督＝小森　白

生首情痴事件＝大蔵映画配給

復讐する美女の生首!!

藤山五郎（鶴岡八郎）は財産と名誉が目的で玲子（火鳥こづえ）と結婚した。藤山には愛人有島順子（高月絢子）があり、将来への固い密約があった。玲子は夫の陰ぼうを知り、極度の神経衰弱になる。五郎と順子は、病気を苦にしての鉄道自殺とみせかけ、玲子を殺す。産婦人科の医師三田仁（泉田洋志）と愛人の看護婦マチ子（泉ユリ）も玲子の財産を狙っていた。

五郎は、大やけどをした順子をはなれ、マチ子にかわろうとする。そこへ玲子の亡霊がで、大乱斗。全員死に玲子の生首はようやく昇天する。カラー。監督＝小川欽也

処女未練＝日本シネマ配給

おさない肌をおそう獣の男たち

愛人由子（星河恵＝新人）と子供・町子（新久美子）のため、岩下（武藤周作）は殺人をおかした。十五年の時効完成まで、半年を迫ったある日、中国人貿易業者として、ヒョッコリ羽田に降り立った枝川（九重京司）は復讐のための帰国と早合点、再三岩下におそいかかる。

「処女未練」の星河 恵

岩下は、ふしぎな病気にとりつかれ、余すところ一カ月の生命。ひと目、成長した娘とあいたさに帰国したのだ。
　帰ってみておどろいた。町子は手をつけられない不良娘となっていた。岩手の生命が終りに近ずいたころ、ようやく父であることを知った。
カラー　監督＝向井　寛

ひめごと＝関東ムービー配給

のぞかれた情事の裏側とは？

倒産寸前の町工場の経営者修造（木南清）を父にもつ芸者由利香（抽木ミカ）は、義母の情事を記事にして雑誌社へ売ったのを契機に、プロ野球の外人選手と芸者の情事、芸者仲間金漁（山本純子）などのご乱行を雑誌社に売るルポライターもしていた。
　由利香は千代駒（林美樹）のパトロン田宮（大原譲二）が汚職を計画、吉川（中村孝）を料亭で買収する現場をテープとカメラに収め、新聞社へ急行する途中、田宮らにつかまる。吉川の息子伸次（久保新二）が父に自首させ、由利香に結婚を申し込む。カラー。
製作＝シネ・ユニモンド
監督＝高木丈夫

クライマックス＝ワールド映画配給

貧困に歪められた男とコールガールの愛情

大学生の英樹（田口一矢）は妹の典子（達見典子）とアパート生活をしていた。典子は金持の恋人と結婚したいと思っていたが英樹は「汚辱にみちた黄金の生活に典子の若さを売らせたくない!!」と反対しつづける。英樹は金貸しの春江（清水世津）に金をかりていたが、強欲な春江を斧で殺して金をうばってしまう。街のコールガールの幸子（飛鳥公子）の愛情にうたれた英樹は自首する決意をするのだった。

監督＝奥脇敏夫

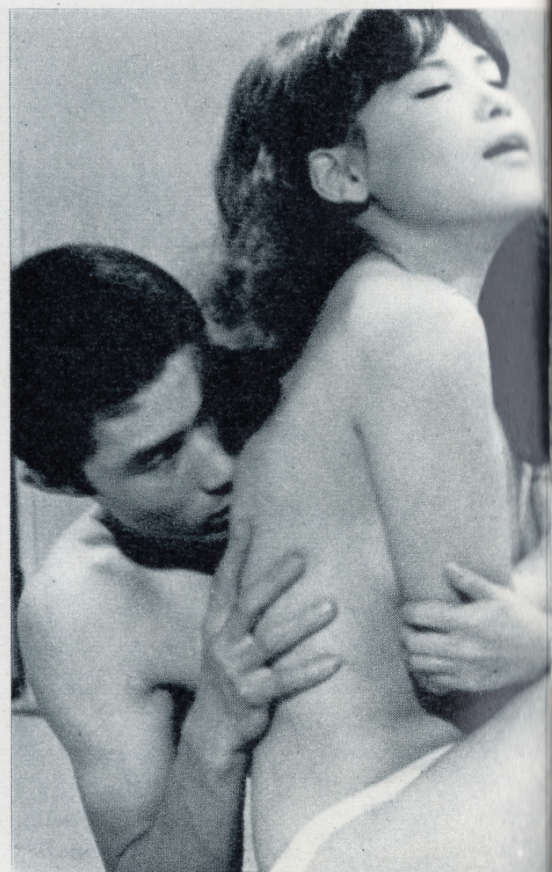
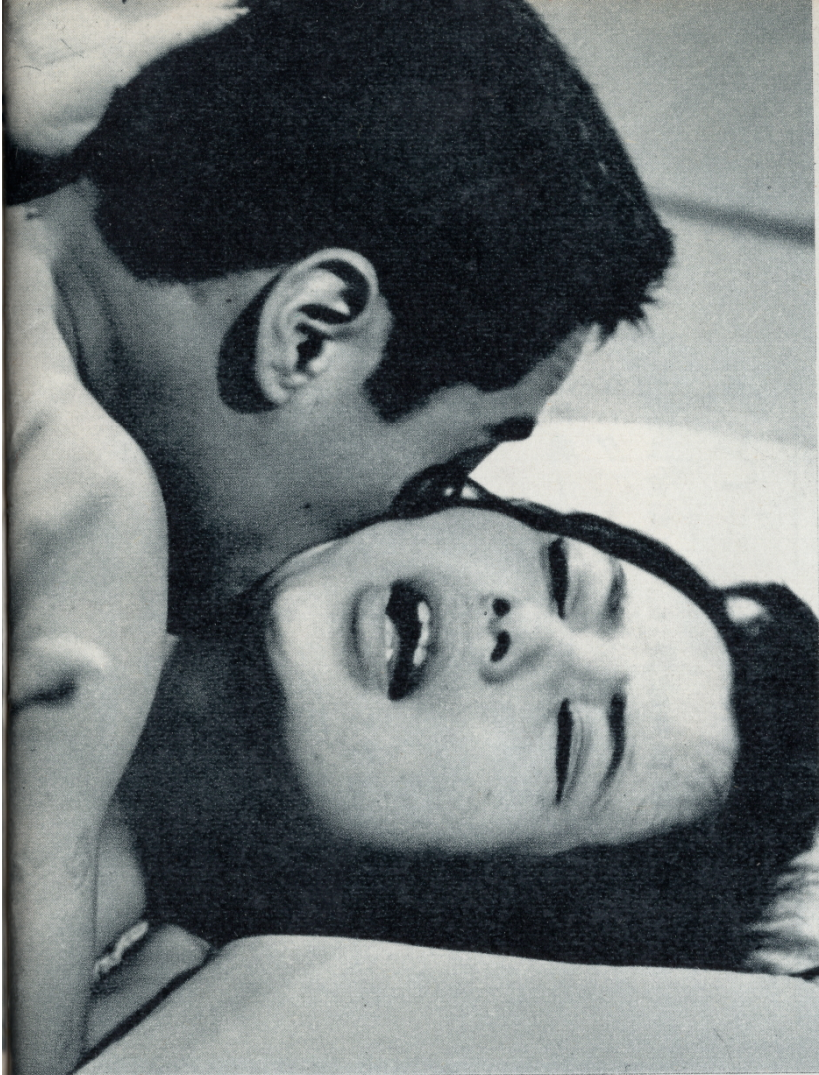
肉の爪あと＝東京興映配給

解剖された裸の女体の中にあったものは……。

外科医の江上（里見孝二）は暴力団のボス吉岡（長岡丈二）に地下室につれられ、気を失っている咲子（千月のり子）がのみこんだ紙切れを取りだすため手術を強行される「いやだ！生きている人間をこんな設備のない所で手術なんて出来ない!!」

「死体なら文句ないだろう。ただの解剖だからな」と吉岡はその場で咲子を殺してしまう。取り出した紙切れは金の延べ棒の割符だった。吉岡は情婦（林美樹）にバーをやらせ、ホステスの昌子（幸友美）を取引のプレゼントにするのだった。昌子は殺された咲子の妹だった。

監督＝大野裕司

「ひめごと」の林美樹

「クライマックス」の飛鳥公子

「不毛の愛欲」の一星ケミ

「歪んだ情欲」の南麗花

乱れた関係＝葵映画配給

私の愛した男がヤクザとは!!

美容師を夢みながら美容学校に通う美佐（香取環）を三郎（里見孝二）が暴漢から助けた。いつしか三郎は、美佐を食いものにしていた。バーのマダム、ユキ（清水世津）は、美佐にホステスをすすめる。三郎も、収入が増えるので、有無なく賛成。一途な美佐はそれとは知らず、バー勤めをはじめた。三郎はユキの金に目をつけ、接近、美佐をだましながら関係をつづける。ユキの旦那英三が、ユキの浮気を目撃、酒に酔って、日ごろ想っていた美佐を無理に犯してしまう。ユキと三郎のことを知った美佐は、放心して包丁を手にする。カラー。

監督＝西原儀一

不毛の愛欲＝関東映配配給

いつわりの情事に身をこがす女の本性

美沙（観世亜紀）は隆三（鶴岡八郎）との夫婦生活にあきたりない。

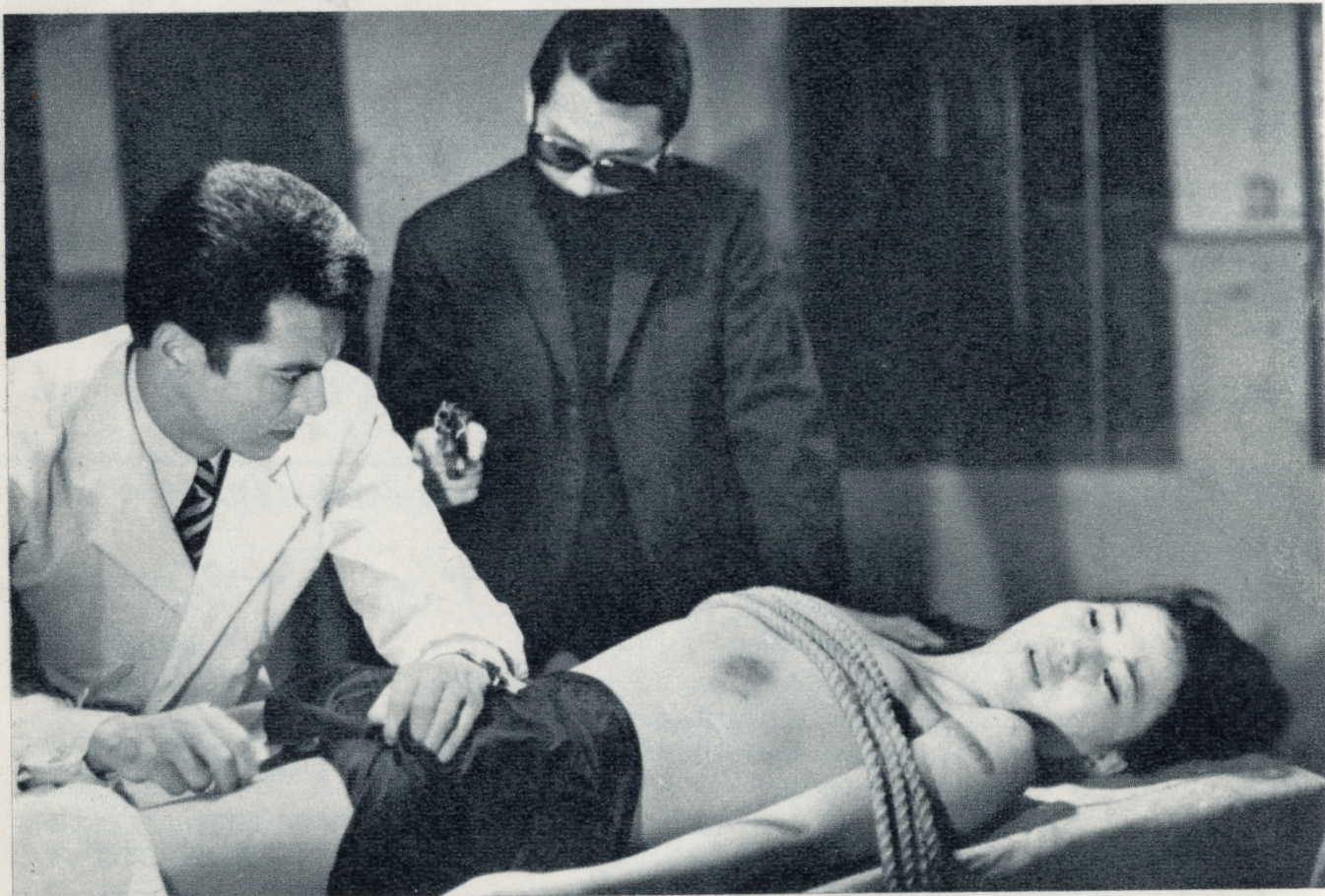
隆之は、自分の車でケガをさせたつぐないに菊子（志村旺子）に花屋を開いてやる。菊子には恋人田部（野上正義）がいた。田部は出世欲から菊子が邪魔になり走ってくる隆之の車に突きあてたのだった。菊子の妹宏子（一星ケミ）は姉の復讐のため田部と近ずく。

暇をもてあました美沙は車の運転を習う。教師は何と田部。田部は、新たな金ずるとして美沙を利用する。美沙は田部を心から愛すが、田部の菊子への殺意を知り、ようやくわれにかえった。カラー。製作＝青年群像　監督＝山下治

歪んだ情欲＝大蔵映画配給

殺意の陰で咲き競そう二人の女

辰雄（里見孝二）はＢＧの浪子（南麗花）と社長令嬢の裕子（美川恵子）とにはさまれ、悩んでいる。浪子とは、学生時代からの義理で、さいきんになって妊娠してしまった。辰雄は、自分の将来を考え、裕子と一緒になることを真剣に考えはじめた。裕子は百万円の手切金を出すというが、浪子は、愛は金では買えないとケル。困った辰雄は、殺し屋を雇う。辰雄のスローなのにみかねた裕子は、浪子のアパートへ単身乗りこむ。なにも知らない殺し屋は、裕子におそいかかってしまった。その行為は想像を絶する妖しい残酷さで。製作＝ヤマベプロ　監督＝黒岩松次郎

「乱れた関係」の香取 環

「肉の爪あと」の千月のり子

OPチェーン 映画ガイド

5/23～5/31	続・悪徳医（日本シネマ）	ひめごと（関東ムービー）
6/1～6/9	生首情痴事件・幽霊屋敷の蛇淫・ミイラの恐怖（大蔵映画）	
6/10～6/17	女の昼と夜（関東ムービー）	（大蔵映画）
6/18～6/24	鞭と肌（関東映配）	処女未練（日本シネマ）
6/25～7/1	続・可愛い肌（葵映画）	いろの道づれ（六邦映画）
7/2～7/9	情欲の暴走（大蔵映画）	若い刺激（大蔵映画）

■読者サロン

★五年前に成人映画を見はじめてからやみつきになりました。あの映画館の暗いシートの上に腰をおちつける時、それはボクにとって失われていた自己の主体性を回復する時である。しかし方法論を喪失しているピンク映画にガマンできず、シナリオを書いてみました。サド、マゾ、殺し、戦争、愛、反米などのあらゆるイマージュを錯綜することによって性の世界を象徴しようとする試みです。かつての成人映画にみられぬメタフィジカルフィルムですが、それが上映されるのを夢みているボクです。（東京・坂部）

★ゴールデンウィークの日に上野パークで、スターの挨拶がありましたが私は女優さんを見たのが初めてでとてもうれしかった。東京ではスターが挨拶したのが初めてときましたが、私達ファンにとってはもっとスターと接触したいのでこれからもこういうことをやってほしい。（埼玉・高木）

■編集後記

★これまでの〝女優〟のセクシーポーズ集を今月から〝魅力探険〟にタイトルをかえた。とても女優というほどの演技力もないのに―なんていう意見に負けたわけじゃないけど、さまざまのセクシーな魅力をカメラで探険ということでこうなった。女優の新旧交代期でもあるし、この際、タイトルも若返らせ、さらに〝スター訪問〟もぐっと若返らせたわけ。ハチ切れんばかりの若い二人、若さの時代です。（K）

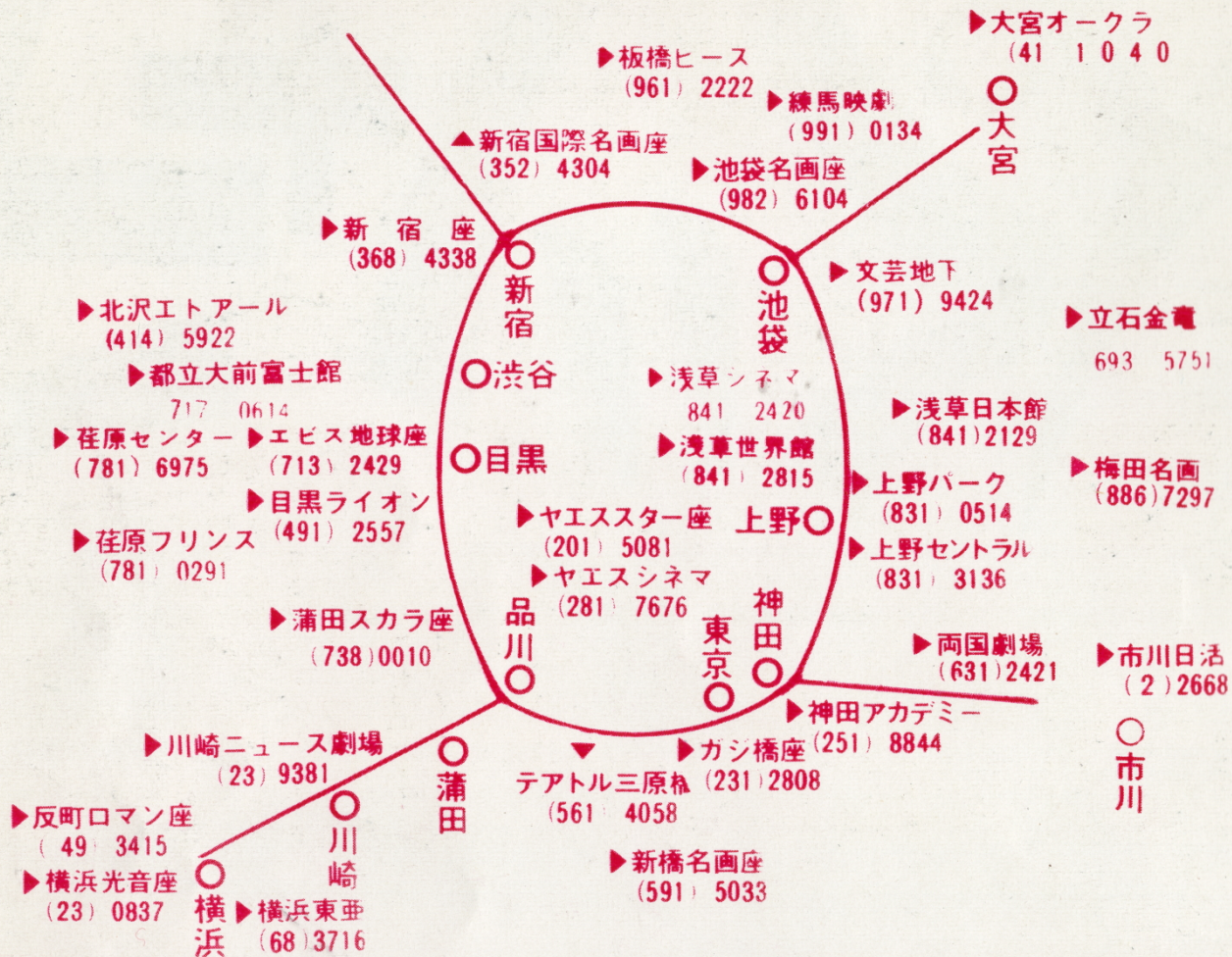
★特集〝映画になぜセクシーシーンが必要なのか〟はいまさら開き直って―と感じとられるかも知れないが、最近の〝表現の自由〟が犯されはじめている現実や、セックスをテーマにした作品がとかくの批判と、罪悪視を受けている中で、もう一度、直視してみたい―という企画です。次号は「私はなぜ〝性〟を描くか！」を大特集して問いかけたい。（M）

成人映画

■昭和42年6月1日発行 通巻第18号 毎月1回1日発行 編集兼発行人／川島のぶ子 発行所／東京都中央区銀座西8―10 高速道路ビル地下101号室 現代工房 電話／東京（571）6400 ■定価百円

関東地区成人映画上映館一覧表

大阪地区成人映画上映館

難波
- ▶千日前オリオン座 (641 5477
- ▶千日前新オリオン座 (641 5477

西淀川区
- ▶野里リボン座 (471 1082

阿倍野筋
- ▶阿倍野名画座 (641) 5885

福島区
- ▶吉本キネマ (451) 6793

布施市
- ▶布施映劇 721 499

城東区
- ▶放出シネマ (961) 0664

守口市
- ▶守口セントラル (991) 0049

東淀川区
- ▶十三若草劇場 301 5929

天王寺区
- ▶鶴橋松竹 (761)9752

都島区
- ▶都島会館 (951)4651

北区
- ▶天六映画劇場 351 9138

大阪駅

名古屋地区成人映画上映館

- ○浄心ハイツ (531) 4118
- ○上飯田劇場 (991) 5714
- ○守山瓢映 0560-(79)2082
- ○栄生グランド劇場 (551) 6379
- ○タカラ劇場 (941) 6076
- ○堀川映画劇場 (231) 0193
- ⊙今池フジ (731)4763
- ○太閤劇場 (551)2353
- ⊙テアトル希望 (541) 3044
- ○曙文化劇場 (731) 3806
- ⊙日活シネマ (241) 2345
- ○鶴舞劇場 (881)8494
- ⊙名画座 (231 3211
- ○日比野東映 (671 0407
- ○雁道劇場 (881)8069
- ○八熊文化劇場 (321) 8194
- ⊙南映画劇場 (811) 4906
- ○新郊劇場 (811)2730
- ○名港文化劇場 (661) 1269
- ○名南劇場 (811)6586

月刊「成人映画」通巻十八号 昭和42年6月1日発行 編集発行人 川島のぶ子 発行所／東京都中央区銀座西八ー一〇 高速道路ビル地下一〇一号室 電話(五七一)六四〇〇 現代工房 定価百円